南会津町耻風地区

大学生等による地域づくり支援事業

2021 年度　活動報告書

獨協大学
大竹ゼミ

［目次］

1.　はじめに

2.　耻風地区の概要と現状

3.　2021 年度の活動報告

3.1　獨協大学「″Earth Week Dokkyo 2021～Winter～″」における物産展の開催

3.2　パンフレット作成

3.3　聞き取り調査

4.　今年度の反省点

5.　来年度に向けて

1. はじめに

獨協大学大竹ゼミは 2017 年度に活動を開始し、2019 年度から「大学生等による地域創生推進事業」に参加した。以前は「大学生等の力を活用した集落復興支援事業」であったが、2019 年度より本事業へと移行した。大竹ゼミではエコツーリズムやグリーンツーリズム、農業復興の進め方について学んでいる。消費機能をもつ都市と生産機能をもつ農村の両方が共存してこそ私たちの生活が成り立つのである。農村地域においては、食糧やエネルギー、資源をつくるだけでなく、防災や環境保存といった多面的機能も注目されている。こうした機能をもつ農村地域を健全に保っていくことが必要である。その一環としてこの事業に参加している。今年度の活動では「耻風に行って、魅力を再認識」というテーマ活動した。2019 年度では、6 回の耻風訪問と多く訪問することができたが、今年度は新型コロナウイルス拡大の影響により 2 回しか訪問することができなかった。このような状況の中、私達は耻風の魅力を再確認し、現地の人に聞き取り調査などを行い、それをパンフレットにまとめた。以下は今年度の活動内容である。

2021 年度の活動内容

日程	活動回	詳細
11 月 20 日～21 日	第 1 回訪問	顔合わせ
12 月 4 日～5 日	第 2 回訪問	そば打ち体験
12 月 6 日～10 日	獨協大学主催 「Earth week Dokkyo」出店	農産物の販売
12 月～1 月	パンフレット作り	耻風地区の現状、歴史、特産物などについて記載

2. 耻風地区の概要と現状

耻風地区は南会津町の南西部に位置する、人口 44 人・18 世帯の地区である。会津高原尾瀬口駅より 30km、会津田島駅 40km 離れた場所に位置している。アクセス方法としては、会津高原尾瀬口駅から車で約 35 分である。会津バスは 2 時間半に 1 本しかなく、近くに鉄道もない。しかし、国道 352 号 401 号に面しており、会津の中心地である会津若松まで車 1 時間 20 分と車での移動がし易い。また、国道の分岐点に近いことから、新潟、日光などの多方面からのアクセスもし易くなっている。耻風地区の主な課題は 38.64%という高い高齢化率である。その原因は出生率の低下にあり、10 代後半から 50 代前半の生産人口が少なくここ数年子供が生まれていないことが原因である。高齢化が進行していくと、農作業への負担をはじめとする様々な問題が発生してしまう。このような問題を解消するためには年齢層を増加させることが必要不可欠だ。年齢層を増やすことによって地域の高齢者の負担を軽減するとともに、地域の活性化も行うことができる。地域の魅力を外部へ発信して交流人口を増加させることで新たな経済 循環を作り出し、若者の流出を防いで定住人口を増やしていくことが年齢層の増加において重要だ。そのために、大竹ゼミ耻風班のような大学生をはじめとする若者によって耻風地区の魅力を多くの人に伝える活動が行われている。

3.　2021 年度の活動報告

3.1　獨協大学「″Earth Week Dokkyo 2021～Winter～″」における物産展の開催

獨協大学では年２回「Earth Week Dokkyo」という最大規模のエコイベントを行っている。″Earth Week Dokkyo 2021～Winter～″は 12 月 6 日(月)～11 日(土)の１週間に開催された。このイベントは 「楽しく社会問題を学ぶ」ことをモットーに、ワークショップや公開授業などを通して未来を担う獨協生に地球の現状と今後の持続可能な社会について考える機会の提供を目指している。私たち耻風班が物産展に出店し、学校内の大学生、そして学外者（草加市民）の方を中心に耻風地区や南会津町の PR 活動を行うとともに、地元農産物の販売等も開催した。場所は本学学生センター付近で行った（写真１・2）。

環境週開催前の準備としては、主に会場設営や販売物のポップや PR ポスターの作成、また耻風班メンバーがイベンド前日に耻風地区に訪問し、特産品の仕入れ、両替用硬貨の準備、販売品搬入・準備を行った。販売品目と売上は図表１の通りである。

写真１・2「″Earth Week Dokkyo 2021～Winter～″」で物産展を開催した時の様子

図表１「″Earth Week Dokkyo 2021～Winter～″」販売品目と売上合計(次頁に続く)

項目	単価	販売量	合計
南郷トマト	400 円	4	1,600 円

青トマト	50 円	35	1,750 円
乾燥シイタケ	550 円	10	5,500 円
乾燥ヒラタケ	550 円	10	5,500 円
蕎麦粉（500g）	600 円	10	6,000 円
蕎麦の実	500 円	10	5,000 円
漬け物（赤カブ）	300 円	10	3,000 円

売上合計	28,350 円
仕入原価	20,700 円
利益	7,650 円

初日から大学生だけではなく、多く住民の方も来られている。一週間を通して、多数の方々と対面でのコミュニケーションが取れ、特産品を通じて地区の魅力を伝えることができた。

反省点としては、蕎麦粉など商品が売れる方法の改善が挙げられた。蕎麦粉については基本的には家で蕎麦を打つことは難しく、蕎麦を打つ以外の使い道がわからないなどの理由から購入に至らないケースが多かった。この点については商品を積み上げると売れやすくなることや蕎麦粉でできる料理を掲示することなど、今後に向け買いやすい売り場づくりを目指す必要があった。

3.2　パンフレット作成

前年度の活動はコロナウイルスの影響で耻風地区への訪問・交流が十分にできなかったため、今年度の活動は耻風に関する知識・経験の浅いメンバーでのスタートとなった。そのため今年度は「耻風を知る」ことを主軸として活動した。

耻風地区に関する情報を収集し、知識を深めることを目的に耻風地区についてまとめた「パンフレット」を作成した。パンフレット作成にあたり、調査項目を現状と課題、概要、特産品、植生と気候、歴史、蔵の 6 項目に設定し分担して取り組んだ。インターネット、書籍、過去の活動報告書等を用いて情報収集をしたのち、情報の真偽や疑問点、より詳細な情報を得るため ZOOM を通して地区の方々に聞き込み調査を行った。写真や図、グラフなどを用いて、耻風地区を知らない人でも読みやすくわかりやすい内容にまとめるよう努めた。パンフレットは、ゼミ選択をする新入生向けのものと、一般向けの 2 種類作成した。作成したパンフレットはより多くの人が閲覧できるように、印刷した紙媒体のパンフレットと電子パンフレットを用意した。一般向けパンフレットは校内リーフレットコーナーや図書館での設置や、オープンキャンパス・Earth Week Dokkyo での配布、草加市役所・市内図書館での設置、南会津町役場・道の駅での設置を考えているが、印刷が完了していなかったため実行できておらず、次年度へ引き継ぎ実行していきたい。

また、次頁より第 31 頁まで私たちが実際にまとめたパンフレットを掲載する。

以下より、実際にまとめたパンフレット

この頁は表紙、次頁以降は本文である。（第 30 頁まで）

目次

耻風地区の現状と課題 3
耻風の概要 5
特産品 7
植生と気候 9
耻風の歴史 13
耻風の蔵 15
耻風班の過去の活動 17

あいさつ

獨協大学大竹ゼミ耻風班の山元樹（やまもといつき）です。

私たち耻風班２年生･3 年生共同で、福島県南会津町の耻風地区を知ることを目的として、作りました。私たちは昨年度が遠隔授業により耻風地区を知る機会があまりなかったため、知識を蓄えようという思いで作りました。また、皆さんも耻風って言葉を聞くと、「え、なに？」、「どこ？」というような疑問が浮かぶのではないかと思います。

そのため、このパンフレットには、現状、歴史、特産品、先輩の活動などあらゆる分野を載せておりますので、このパンフレットを読みながら、耻風地区を楽しんでください。

2

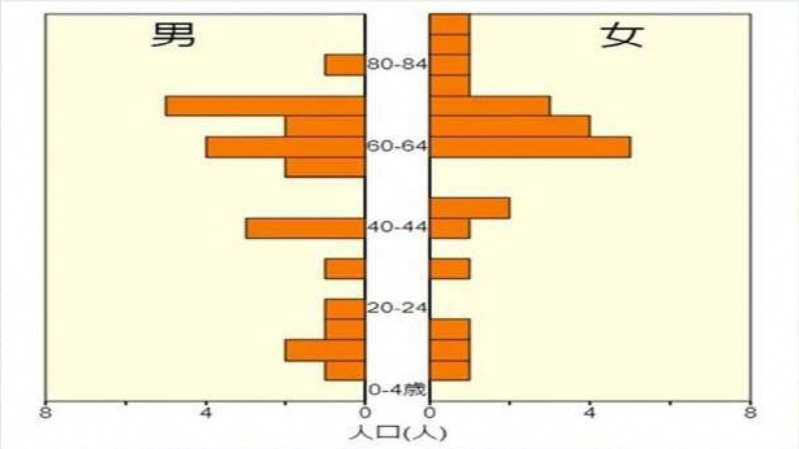
耻風地区の現状と課題

人口 44 人 18 世帯の地区である耻風地区の主な課題は38.64%という高い高齢化率です。その原因は出生率の低下にあり、10 代後半から 50 代前半の生産人口が少なくここ数年子供が生まれていないことが図の人口ピラミッドから読み取ることができます。この高齢化が進行していくと、農作業への負担をはじめとする様々な問題が発生してしまいます。

このような問題を解消するためには年齢層を増加させることが必要不可欠です。年齢層を増やすことによって地域の高齢者の負担を軽減するとともに、地域の活性化も行うことができます。地域の魅力を外部へ発信して交流人口を増加させることで新たな経済循環を作り出し、若者の流出を防いで定住人口を増やしていくことが若年層の増加において重要です。そのために、大竹ゼミ耻風班のような大学生をはじめとする若者によって耻風地区の魅力を多くの人に伝える活動が行われています。

耻風の街並みと自然景観（下写真、右下写真）

3



耻風地区の人口ピラミッド（2018 年度）

出典：人口統計ラボ耻風年齢別人口

参考 URL(https://toukei-labo.com/2015/nenrei.php?tdfk=07&city=07368&id=78)

4

耻風の概要

場所

南会津町は、福島県の南西部に位置する９割以上が森林で占められた自然豊かな町です。
平成 18 年(2006 年)3 月 20 日に田島町・舘岩村・伊南村・南郷村が合併して誕生しました。耻風地区は、旧伊南村に属しています。

右の地図(福島県)の、左下に赤く印したところが耻風です。

人口

南会津町(令和３年１月現在)
14, 915 人
(男性:7, 324 人、女性:7, 591 人)
世帯数:6, 516 世帯

恥風地区(平成 27 年度)
44 人(男性 23 人、女性 21 人)
世帯数:18 世帯

年齢層

全体的に、高齢者が多く、若者が少ないです。小学生から高校生までの子供がいる世帯もありますが、高齢者の 2 人暮らしの世帯が過半数を占めています。
18 歳から 30 歳までの世代がいなかったが、協力隊が着任したことで空白の世代が埋まりました。

交通

恥風地区は、会津高原尾瀬口駅より 30 ㎞、会津田島駅 40 ㎞離れた場所に位置していて、アクセス方法としては、会津高原尾瀬口駅から車で約 35 分であります。
会津バスは 2 時間半に 1 本しかありません。また、国道 352 号、401 号に面しており、会津の中心地である会津若松まで車で 1 時間 20 分と車での移動がし難いですが、国道の分岐点に近いことから、新潟、日光などの多方面からのアクセスがし易くなっています。

6

特産品

耻風地区の特産品には、「そば」や「トマト」、「山菜」があります。そばの栽培には冷涼な高原気候と昼と夜の寒暖差がある気候が最適とされ、寒暖差がある方が品質の良いそばができるとされています。そのため、昼夜の気温差が大きいという特徴を持つ耻風地区ではそばの栽培が盛んに行われています。そばはカロリーが低く、タンパク質を豊富に含んでいます。また、疲労回復効果があるビタミン B1 や、肌や粘膜の再生に役立つビタミン B2、シミやシワなどの肌の老化の原因となる活性酸素を除去する効果があるルチンも含まれています。そのため、そばは高い美容効果があり、ダイエットに向いている食品であるとされています。

耻風地区がある南会津町には、そばを提供する店が多く、一年を通して美味しいそばを味わうことができます。香り高い新そばの季節になると各地で「そばまつり」が開催されます。そこではそばが食べられるだけではなく、そば打ち体験をすることもできます。そばまつりの中でも南会津で開催される「新そばまつり」は、南会津のそば打ち名人や県内のそば打ち名人が集結し、県内最大級のお祭りとなっています。

7

この地区ではそばの他にトマトや山菜の栽培も盛んに行われています。耻風地区がある南会津町で栽培されるトマトは「南郷トマト」と呼ばれ、全国でも高く評価される名産品となっています。南郷トマトは糖度が高く、実が引き締まっていて食感がしっかりしているのが特徴となっており、品質や味の良さは日本一とされています。また、栄養価も高く美容効果も期待できます。栽培時期は７月下旬～10 月下旬で、昼夜の気温差や高い標高であるこの地域特有の気候を生かして栽培されています。トマトは時間の経過と共に色づいてくるため、実が青いうちに収穫をします。収穫されたトマトのうち、お店で販売できない規格外のものについては、農家から安く買い取り地域の直売所で販売を行っています。また、南郷トマトと塩のみを原材料とした南郷トマトジュースもあります。トマトジュースが苦手な人でも飲みやすく南郷トマトの美味しさが詰まったジュースになっています。

さらに、春になるとワラビ、ふきのとうなどの山菜がよく採れます。この地域で採れた山菜を使った天ぷらはそばとの相性抜群です。

8

植生と気候

植生

恥風には色とりどりの様々な植物が生息しています。

◇ハス

◇ソバ

◇ヒマワリ

◇キキョウ

◇デイジー

◇ノコンギク

◇ノウゼンカズラ

◇ムクゲ

◇アスター

10

◇コスモス

◇ホソバウンラン

◇ハナトラオノ

◇キノコ

11

気候

耻風地区は東西を山に挟まれ南北に抜けた地形で、この山の間を通る風の最大風速は 40m/s を超えるなど、風の強い地域であり、昼夜の寒暖差が激しいことも特徴の一つであります。

12

耻風の歴史

耻風には、様々な歴史がありますが、地名の由来になった出来事や、今につながる出来事を中心に紹介します。

耻風地区の地名の由来

一種の言い伝えではありますが、耻風地区を治めていた河原田氏と攻め込んできた伊達政宗の軍隊との戦いに、戦う意思の無い住民たちは、作物がアワやヒエなどしか出来ず貧しい生活を送っていたため降参の意思を告げる旗をたてるにもきれいな白旗が無いため、話し合いの果てに、女性の着物や腰巻を旗の代わりに用いることを思いつきました。

伊達の軍勢が近づいて来ると、女性たちは自分の身に着けていた着物などを鬼丸山の頂上近くの木々に掛けました。即席の旗は風になびきながら伊達の軍勢に降参の合図を送ったことになり難を逃れることが出来たと言われています。

ただ、その後住民の間では、この出来事は恥ずかしいことであるので他人には話さないよう「耳に止めおき」風の噂にならないように誓い合い、耻風という名前が付けられたと言われています。

養蚕から羊へ

耻風地区において現在では羊肉を使った丼飯、「マトン丼」が作られています。元々収入源であった、養蚕を飼育していましたが、養蚕業が衰退し、昭和 8 年前後より、耻風の山の雑草を使って、羊を飼育しています。また、獨協 EARTHWEEK で私たちも作っています。ちなみに味は牛丼屋の牛肉のような味です。(右写真)

アクセスや観光の向上

耻風地区の周辺では、50 年前より高畑スキー場、たかつえスキー場(右下写真)をはじめとした冬の観光目的としたスキー場が相次いで建設され、たかつえスキー場は獨協方面から耻風に行く途中(国道 352 号線沿い)にあります。

また、夏になるとバスを利用して尾瀬国立公園でのハイキングや登山も楽しめます。(左下写真)

耻風地区では、車生活が主な交通手段となっています。しかし、1980 年代に、野岩鉄道が開通されたことにより、獨協大学から耻風地区へ、東武線・野岩鉄道・バスによりアクセスしやすくなり、交通の便が向上されました。

ルート・・・(獨協大学前⇔特急リバティ号⇔会津高原尾瀬口⇔バス⇔耻風)

しかし、電車やバスの便数の関係から、車の免許を取っておくとよいでしょう。

14

耻風の蔵

耻風には個人所有の蔵が 7 棟あり、うち 1 棟は強風により屋根が破損しています。主に物置として使用されていますが、降雪時の雪下ろしなどの負担が大きく、取り壊す方針であることが聞き取り調査によって判明しました。耻風の蔵は道沿いにあり、道行く観光客からも見えやすいこと、数が多いこと、状態が良いことから、取り壊すのではなく、活用して耻風のシンボルにすることを目指すことにしました。

活用方法としては、宿泊施設またはカフェ、飲食店にするという提案をします。宿泊施設の場合、1 棟すべて貸し切りにすることで、少人数で管理運営することが可能になるという利点があります。

15

カフェ、飲食店の場合には、地区の特産品をメニューに加えることで、PR になり、また、地区周辺には競合店が存在しないことも特筆されます。

このことから、カフェ、飲食店にした場合、地域の住民が集まるコミュニティの場になることも予想されます。いずれの案も複数人で運営にあたることで、今まで個人負担だった蔵の修繕費用、労力が分散され持続的な保存が可能になると思われます。

16

耻風班の過去の活動

私たち大竹ゼミでは、2017 年に調査を始めてから、今年（2021 年）で 5 年目となります。

2017 年

まず、2017 年には計2回の実態調査を行い、第一弾では現地の方へのヒアリングや意見交流会を通し、現地について調査を行いました。第二弾では、引き続きヒアリング調査や意見交流会を行いながら、そば打ち体験などの野外体験を経験させて頂きました。2回の訪問により、耻風地区の人口や地域特性、産業、観光資源や暮らしなどの基本情報について調査しました。

2018 年

2018 年には、昨年の調査で判明した耻風地区の課題（少子高齢化により、地域の生活・伝統・文化が維持できなくなりつつある）の改善を目指し、耻風地区の若者人口を増やすために、交流人口・関係人口の増加に向けた実証実験を行いました。

まず、そばを用いたガレットの消費者の反応を調査するために「伊南川あゆ祭り」に地区の方と共に共同出店しました。また、本事業の宣伝のために学生がデザインしたオリジナル T シャツを作成し、この日の活動は南会津町の広報誌に掲載されました。

獨協大学学園祭「雄飛祭」では、耻風地区や南会津の PR 活動を行うとともに、地元農産物の販売等を開催しました。獨協大学と耻風地区でコラボした「蕎麦ポン（蕎麦の実に圧力をかけながら熱することで、ポップコーンのようにはじけさせて作る菓子）」は 2018 年雄飛祭で初めて商品化した商品です。

さらに、草加市で毎年開催されている「草加ふささら祭り」に出店しました。あゆ祭りで好評だったガレットに加え、新たに新メニー（南会津でよく食されているラム肉とトマトを一緒に煮込んだものをはさんだもの）を追加し、この2種類のガレットと共に地区産野菜や地酒などを販売しました。

加えて、獨協大学で国際環境経済学科・環境共生研究所が開催するイベント「Earth Week Dokkyo 2018 ~summer~」と「Earth Week Dokkyo 2018~Winter~」に参加し、物産展を開催しました。夏の物産展では耻風地区の主な収穫物である蕎麦を利用した蕎麦粉・蕎麦の実を販売しました。冬の物産展では、同じく復興支援活動を行っている獨協大学・喜多方市本村地区大坪チーム、獨協大学・田村市瀬川地区米山チームとの合同物産展の形で参加しました。野菜、蕎麦の実を使ったポン菓子、山菜の加工品を販売しました。また、蕎麦の魅力を知っていただくために、蕎麦茶と蕎麦の実スープを試食も実施しました。

　また、本年度、第1回の耻風地区訪問時には、地区にある鬼渡り神社で年に1回行われる神事に参加させていただくと共に、会津田島駅周辺から耻風地区の範囲で飲食店調査を行いました。第3回訪問時には、雪下ろしやそば打ち体験をさせていただきました。

2019 年

2019 年には、引き続き耻風を知ってもらいたいというのを前提に、耻風の特産品を使用した特産品の販売、イベント出店などによる都市部、また耻風地区周辺地域との交流、耻風の PR 活動を行いました。この年は、年間で最多となる6回訪問し、様々な体験をさせていただきました。

まず第2回訪問時、南会津町の大桃地区で開催された「大桃夢舞台」に出店しました。蕎麦の実を使用した「蕎麦ポン」と地区産野菜を販売しました。

第3回訪問時には、「第 60 回伊南地域運動会」に参加させていただきました。地域の子供たちや高校生と交流することができ、獨協大学や大竹ゼミの活動に興味を持っていただくことができました。

ポン菓子販売の写真

第4回訪問時には、昨年に引き続き「伊南川あゆ祭り」に出店しました。前年度販売したガレットに加え、耻風地区で日常的に食されている羊肉を使ったマトン丼を販売しました。

第5回訪問時には、耻風地区の PR 動画作成を目的に、会津田島駅から耻風地区までの往復 76 キロのサイクリングを行いました。これをもとに作成した PR 動画は、南会津地方の自然の魅力を伝えることができるものになりました。

また、前年度に引き続き「草加ふささら祭り」に出店し、ガレットとマトン丼を販売しました。

さらに、大学内で開催された、「Earth Week Dokkyo 2019 ~Winter~」に参加し、マトン丼を販売しました。同時に耻風地区の存在を伝えるためにポップや写真などを新たに作成し、Instagram や Twitter などの SNS を最大限に活用して情報発信を行いました。

サイクリングの写真

20

2020 年

本年度は、新型コロナウイルスの影響で、耻風地区に直接訪問しての活動はできませんでしたが、その中でもできることとして、ZOOM などを利用してオンラインで地域の方々と連絡を取り合い、交流を図りました。

また、蕎麦粉ガレットに焦点を当て、少人数で集まり商品研究を行った。具体的には、ガレット生地に使う蕎麦粉と小麦粉の配合やガレットに会う具材について研究しました。また、実際に蕎麦粉ガレットを提供しているお店(表参道にある“ブレッツカフェクレープリー”)に足を運び、試食調査を行いました。

さらに、耻風地区の PR 動画作成に向けて、空から撮影できるドローンを購入しました。新型コロナウイルスの影響で学生は現地に行くことができないため、現地の方に撮影していただき、学生がその映像を編集して PR 動画を作成しました。

加えて、次年度以降の活動に向けて、「tent-Mark DESINES」のテントを購入しました。このテントを活用して、子供たちとキャンプなどのイベントを開催することが期待できます。

2021年

本年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルスの影響で、耻風地区に直接訪問することがほとんどできませんでした。

その中でもできることとして、「Earth Week Dokkyo 2021 ~Summer~」、「Earth Week Dokkyo 2021 ~Winter~」へ参加した。夏には蕎麦粉のガレットを、参加した学生に振舞いました。冬には獨協大学・米山ゼミと合同で物産展を開催し、地域の野菜や蕎麦の実などを販売しました。

また、次年度大竹ゼミに入る獨協生に向けて、耻風班の活動を知ってもらう目的で、耻風地区のパンフレットを作製しました。耻風地区の概要や歴史、耻風班の過去の活動についてまとめ、1年生に向けてPRをすることができました。

また、冬には耻風地区に少人数という条件付きで耻風地区に訪問することができました。

第1回訪問時には地域の方々の家々を学生が直接訪問し、アンケート調査を行いました。耻風の方々のお話を直接聞くことで、暮らしや人柄について知ることができました。

第2回訪問時には、第1回同様アンケートを実施するとともに、蕎麦打ち体験をさせていただきました。

最後に、大竹ゼミに入る獨協生だけでなく、獨協大学すべての学生や教授などに大竹ゼミ・耻風班の活動をしっていただく目的で本パンフレットを作製しました。

編集後記

（2 年蜂谷）
耻風のことについて調べ、実際に現地を訪れ、地域の方達の温かさに触れて、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。大自然に囲まれた耻風だからこそ感じる空気や時間の流れが、とても刺激的でした。普段の生活では感じられない耻風の魅力を見つけることが出来ました。

（３年山元）
耻風については、昨年度はコロナウイルスによる遠隔授業の影響で、知る機会がほぼありませんでしたが、耻風班の皆さんと一緒にパンフレットを作ることにより、作りながら耻風地区について知ることができました。また、住民との会話を交わしながら耻風の新しい魅力などを発見することができたので、耻風の関心が深まりました。これからも耻風の面白さや魅力などを発見できたらと考えています。

耻風 MAP

24

3.3　聞き取り調査

山田雄大さん(25)

・家族構成
　本人のみ

・耻風で暮らした年数
　３年

・職業
　地域おこし協力隊

・大学生時代の耻風地区の事業
　フィールドワークに興味があり、その際に大学の先生からのお誘いで事業に参加した。
　主な活動内容として、地域住民への聞き取り調査などを行なった。

・事業に参加する前の耻風地区に対するイメージと事業を行う中での発見
　山奥にある田舎ということで、斜面が多く人が住める面積が少なそう。
　しかし、想像以上に平らで住みやすそうな場所が多かった。
　活動の中で耻風地区を訪れた際に地域住民の方々が快く迎え入れてくださり、そこに活動のやりやすさを感じるとともにこれからも引き続き事業に携わっていきたいと思うようになった。

・地域おこし協力隊になった理由
　大学を卒業した後も継続してこの耻風の事業に携わっていきたいと思ったから。

・大学生としての耻風地区の事業から地域おこし協力隊となったときの変化
　耻風地区だけでなく南会津町全体と関わる必要があるため、活動範囲が広がりより多くの人と付き合うようになった。
　耻風地区に集中したかったがそこまで手が回らなかった。
　しかし、活動範囲が広がったことで様々な人とコミュニケーションが取れるようになったので結果としてよい方向にはたらいた。

・地域おこし協力隊の任期を終えた後
　耻風地区にとどまり起業をする。

・耻風地区にとどまって事業を行い続ける理由
　耻風地区の地域住民の方々の多くは高齢であるが、皆若々しくまるで同い年の人と一緒に仕事をしている気分であり、そういった人々の雰囲気が好きだから。

平野秀敏さん(60)

・家族構成
　本人、母親

・耻風で暮らした年数
　30 年

・職業
　清水屋旅館の経営

・清水屋旅館について
戦前、新潟や群馬から会津、栃木へ向かう分岐点となる三叉路近くに、後の清水屋旅館となる隠居建屋が建てられる。この隠居した本人が、歩いて商売していた行商人にお風呂や食事を提供し、趣味で泊めはじめたのが始まり。
戦後 1947 年後半に正式に旅館業の許可を得て、宿泊業を本格的に始める。
現在のご主人である秀敏さんは、正式な旅館業として始まってから 3 代目となる。

・南会津町の旅館業
　もともと民宿は多くなかったのだが、約 30 年前のスキーブームの影響で近辺に新しいスキー場が作られたことがきっかけとなり民宿の数が急増した。
　しかし、スキー場の利用客の減少や経営者の高齢化にともなって民宿の数は徐々に減少していき、現在ではかなり少ない状態となっている。

・旅館の経営において大切なこと、心がけていること
　常におもてなしの心を持ち、お客様満足度を高める事。
お客様ひとりひとりに良いサービスを提供できる様に、無理をして多人数を泊めることはしない。

・旅館の経営において大変なこと
　お客様の安心安全、顧客満足度を高めるために、設備点検や改善工事が常に必要なこと。
当日予約やお客様からの無理な要望をお断りしなければならない時。

・旅館の経営に対するやりがい、この仕事をやっててよかったと思うとき
　お客様が喜んで帰っていき、そして再び来てもらうとき。
　旬の山菜が採れる時期や、アユが採れる時期にリピーターとして毎年来て下さるお客様がいるということにやりがいを感じている。

平野隆伸さん(66)

・家族構成
　本人、奥さん、息子

・耻風で暮らした年数
　50 年

・職業
　そば農家
　林野庁関連の公務員（現在は退職）
　耻風地区の区長

・そばの栽培
　もともと父親が果樹園を営んでおり、その土地を引き継ぐ際にそばの栽培を始めた。
　畑の大きさは 5.5ha
　収穫されたそばの実は半分を自身でそば粉に加工して販売し、もう半分を実のまま町の企業に販売している。
　自然環境によって収穫量が左右されることに苦労している。

・公務員について
　高校卒業時に学校の先生から公務員になることを勧められた。
　そのときの所属していた学科が林業科だったことから農林水産省に務めることとなった。
　山や自然が好きだからそんな自分にこの仕事はあっていた。

・区長の役割
　町の役場と耻風地区の住民の方々との連絡係

・現在の生活についてそのほかのこと
　そばの栽培だけでなく家庭菜園も行なっている。
　産業廃棄物の監視員や老人ホームのアルバイトを行なっている。

平野博信さん(66)

・家族構成
　本人、奥さん、母親

・耻風で暮らした年数
　60 年

・職業
　様々な事業の委託を受けている
　例）別荘地やキャンプ場の運営、管理
　　町の直売場の運営、管理、物資の運搬
　昔は旅館の経営を行なっていた

・キャンプ場の管理を始めたきっかけ
　ホームセンターを主としている企業から委託を受けて行なっている。
　その企業の社長と博信さんは友人の関係にあり、その社長の遺志を継ぐかたちでこの事業に携わっている。

・キャンプ場の管理において心がけていること
　まず、機械器具、従業員、自分自身といった様々なことの安全に十分配慮する。
　人々のつながりを大切にする。
　ある場所に多くの人が来ることによってその場所に破壊や汚染などの弊害が生じるが、人は自分にとって大切な場所を汚したり壊したりしようとは思わない。
そのため安易に人をたくさん呼ばず、このキャンプ場のことを本当に大切な場所だと思い、その人にとって大切な人にだけそのキャンプ場のこと教えるようなそんな場所にしていく。
　特に、管理しているキャンプ場は川の上流にあるためそこをきれいに保つことは、下流や海に対しての大切な役目となる。

・キャンプ場の管理に対するやりがい、この仕事をやっててよかったと思うとき
　社長の意向として、企業の人材育成に力を入れていく方針が定まった。
　その際に、人づくりを任されて自身の管理するキャンプ場で実際に人づくりをやらせてもらっていることにやりがいを感じている。

・昔経営していた旅館について
　もともと家が大きく部屋がたくさんあり、商売をやっていたことから多くの行商人が訪れた。
　その際に、行商人を一晩泊めていくことがあった。
　その後、正式に許可を取って旅館業を始めた。

・旅館の経営
　様々なことに挑戦していきたいことから、当時はほとんど流行していなかったグリーンツーリズムを取り入れた。
　旅館の経営と同時に様々な果樹園の運営や、山を利用した宿泊施設の実現に取り組んでいた。
　前例がなかったため、農林水産省や経済団体が研修に来ることがあった。

・旅館の経営を辞めた理由
　キャンプ場の管理を始めたきっかけとなる自身の友人の理想の実現に協力することとなった。
　そちらに重点が行くにつれて旅館や果樹園の経営も難しくなっていき本格的にキャンプ場のほうを応援することになった際に、旅館を閉めてそちらのほうに注力することになった。

4.　今年度の反省点

　1.コミュニケーション不足
私たち耻風班においては、年間を通じて様々なミーティング等を通じて、学年の垣根を越えた交流を深めるきっかけとなればと考えた。しかし、ズームによる開催や、全員の都合が合わず揃わないなど、全体でのコミュニケーションをとる機会が少なかった。来年度はメンバー間全体でコミュニケーションを取れる機会を増やしたい。

　2.LINE などの SNS ツールの活用徹底
1.に関連するが、私たちはスマートフォン、LINE などのコミュニケーションツールを用いて連絡する時代で生活しており、様々な場面において、上記のツールを用いてやりとりしている。そのような時代であるからこそ、よりこまめに共有するべきだった。些細なことでも、メンバー全体で共有し合って活動をより活発に活動すべきだった。

5. 来年度に向けて

　今年度の大竹ゼミ・耻風班の活動は、コロナウイルスの影響で耻風地区への訪問が思うように出来なかった。そんな中でも、新一年生向けのパンフレットの作成や”Earth Week Dokkyo 2021～Summer～ ” ” Earth Week Dokkyo 2021～Winter～”への参加、地域の方々との ZOOM での交流会など、できることを行った。また、２度の耻風への訪問で、現地の様子を直接見て感じることができた。今年度の耻風班の活動にご協力してくださり、温かく迎え入れて下さった耻風地区の皆様に感謝申し上げると共に、これからもこの関係を維持・発展させて行きたいと考えている。そして今後は、今年度の活動で得た耻風地区の基本情報や魅力、そして活動の反省を踏まえて、より実践的な良い提案をすることを目指して活動していきたい。来年度新一年生を班に迎え入れ、さらに幅広い活動が出来ることを期待している。